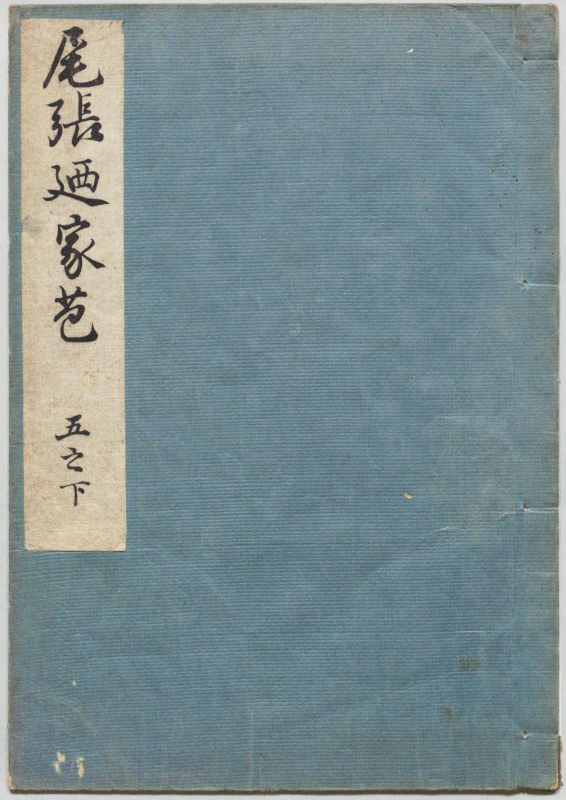
尾張廼家苞
五之下

Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White a/Color Black
© Kodak, 2007 TM Kodak
Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM Kodak

愛知県文化会館

505253

A911
1
2-5-2

尾張廼家苞五之下

新古今集

雜哥下

千五百番歌合よ　撰改

船のうしほ波の下にて巻まくる海人のてまくらいとゞ無

船のうしほなどのたゞしくなれすぎ巻まくるまで

いとゞなくつゝむるあまの袖なるまくらゝ

最勝四天王院障子に定家きたる

定家物語

大淀の浦よりわたをうめなくに袖ぬれてゆる人を

上二句序のゆくもすかた大淀の浦の海人をいふ

[illegible]

平貞敦卿の詩　慈円大僧正

世の中はいとどしかりけり　空ゆく月のあとのみぞ　[illegible]

一二月　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず

思ひをもねこ世のわれとハいふ人の出家し数ならぬ我身なりけれバ
世をすてぬ人ハなとていふぞいまのさとりといふ心の
気のきいた我もその出家しなきゆえやすからぬとあるそ
人のそしりも半分はのこる世をすてぬ人ハいふ人ハ我ぢやと
気の毒ふかき何のとくつくや世をすてたる人も行列を合せ
そこへられ人のくるしき事也　形のこゝ世捨人こそ
まして僧綱なといふ世捨人なき有様也
人をはなれし世を捨ぬこそ恥なきの身なる形のこゝ世
すてハ人のすてぬ言葉のこゝふとなりけり
なれ也之以上よくし

数ならぬ身をも心のもちかほにうかれてハ又かへりきにけり

西行

うかれてハまたかへりくる何としてまたかへり来るか難し
下句の意うつくしく人の目にうるはしく人の心をとめ
りく数ならぬ身とハ才徳智位もなき事也人のあるかむかしのこゝろ
なかにていふ心もなくぞんのこと也うかれてハとも別にあるまじと
それを信謡もなくんとんのさくなき心のこと数もあるぬ身が
何ぞ文位てもあるまじくもするを邪にゆりあるまじきと
なかなかる人のひくまうしたりてもけてさいか心ひのおもひを
結句おもひハ俗さそ料簡といふ事也ばなかなかる人の
常ぶ佛の道をかくぬふ料簡なる事のこゝ思ひをもさやうにて
然るハ命終の時に限りての料簡ハいかにも自にまかせる
上句ハ煩悩のおこるまゝ任せてもこの時てけぐさらしてまたかへるべき
ばとてつひの出もとるかなるこつひのおもひ死後の思案とハいふ事なり
一首の心ハおもふ事をまゝ任せて悪業煩悩をおこす事なりさらし
それをすハ後生の思案ハ何とせんとおもふてとぞ

一 年月をいかで我身におくりけん昨日の人も今日はなき世に

きのふありし人もけふはなき世の中によくも我身はとまりて年月を送りし事よといふ也。世中のはかなきにつけて身の老たるをのべたる也。

一 うけがたき人の姿にうかび出てこりずや誰も又沈むべき

十善戒をたもちたる徳にて三悪道に沈みたる者も人とは生れ得る也。なり。うけがたき人の姿とは、かへりてはやくうけがたき人身に偶々うまれあひたるをの意に悪業をして沈みしをこりもせで又悪道に沈むべきかと浅ましき事と也。姿とはかりにいへるなれど人身の事を字にあててよめるなるべき。

守覚法親王家五十首歌に　寂蓮

そむきても猶うき物は世なりけり身を離れたる心ならねば

世をうしと思ひてそむきては見れど心は身を離れて無き事なれば

身はもとの同じ身なれば、そむきても猶うき事の絶ぬ世なりとぞ。

かくそむかぬ者はなげきつ。その心はおなじ事にて、はかなき世はうき物ぞ。かくなり世を離れ、まず身は我をもなれわがこゝろまきまよひて、あらきなき世ぞと。

述懐

身のうさを捨てし年月いかでせんいとはさりしを末ぞ悲しき

身のうきを思ひしりて早く世をいとひ捨べき事なるに、いとひもせで過ぎし年月をいかゞせんと思ひしり捨たる後、すてて年月を過すこそのおろかなれとなり。二句にて俗にきらふ句ふせんの義にあらず。俗に何とするぞといふ詞なり。此世にて末いかにしてと也。そのうさ我身のうさはきらひつゝぬるきも何とするぞと也。心にそみし事もきらはで世をいとひそれを節にとひなりしよもおもひいもやなりぬで年月を過すとこいふ也は。まことに思ひすて既にいとひ捨ていふとはわかず上句と並てなりしにいまは俗にありし詞のおもしろし。

慈円大僧正

何事もさりにくゝと人としてはこえぬ清きに沙そめるへき
めかれはのかくて心をなるをからでもの（ひたゝ）ゝ今よ何
月をはにからめかれにそことゝれたゝはえゝへきして識まそわらとに之
いとつゝに逃しもやみなんれいしらとききみれ久それの室
まるときく人の身をもれなすとしまといとつくまるさ八今
このはまいとわて後悔してなきく下しとゝ人くの）めてしまるゝる
き身の名それといへなりつきいとし。をしらま）しかゆるゝ之又今後なる時の事をも夕
暮の室といへるし。末にあへしらひ右それもヽこれをうちとゆへんきこえ｝ゆめかぬ地をいふく
夕暮といふ事戯ぞそいく。晩年暮年なといふこともあれハ年老たる
方ハさましくして隠遁の心まゝいふへし。
ゆたへて世をふる身としあるねしあるねもらもも花そらなりき
上句。我ハ出家なれとひとふる世にある俗人もあるねもし。

とげふこゝろしい知えたれとせさへてこいゆねいりし。たへて世をふる
も行せ身今生のはかなき事。俗世の感恋。せんむく事までも何と）もなるかね
ありうちたへるのうちハ発心この発心もそおくくれしるとゝめぬいきふへさ
しせたるやるへきとやらえてハ。おゆきの耳にとゝられのこゝるゝいあるたいゝくいるゝ之
請て上句の意ハ家ハ信なとも隠れ世身はまを）もれて何とおもくて世よ
身わあ身お家して隠れ
をさる身れにもとよろこゝ之。下句ハ出家の身なれとも世のなかハ猶そ自
花にふれ身すのあるとは凶也しこなるさましきこゆれともも下句ハ三懸居
の花鏡とやえんと危く。あるねもらとい思ふ事もあるふ次かへなよ。おお悲
るかしくおもふと之。
ある悪報をといふ。出家して隠りゐる身それは往生佛身をうるハすらのまく
之清れておのつから輪しあるまひられてすらきもあるぬ地獄除仏の花鏡へと
やえいとおもひて。
危く此しき之。又花の下よお千よりつくるとらふやもの物を
くてハ流ともの身。あるねすらきも花つくるとゝ何といふるそ。
清てハとしの心や。剃くて不審なるまくし。也へ
下比傍の歌西行かんにまゝ海を世てみたりとまるとも下なり

さるを此上人の哥は世よりすくれて流麗なるもまし侍りと思ふ事にかまはる
きら殺ありけるよまにちりしたるとはちらさるなきそいはるゝなる
下はいつれの哥も平なる一つの姿なるを上下に縦横にありてあるならぬを
ちりしなりともいひくし定家卿隆信などの英雄たちの此上人を称し
てけるされはにやしをらでも
此のことはいかそうありけん　しをりわたしこはせる姿
しをのへしせんべきこと　やまてよまれけた
是暦建保の比歌人の英雄のいで現はれたる
う数多あり中にも就中おほなおほなも中よ
此御代は定家卿をはじめて人々上手ておのつから一家之人のふりをもやてまねふ人又
あまたありといへるてこの世の歌之この歌は言句幽玄にてなる所な
き中に此世の風にて西行上人しもとさいはんねにこふしく宮くかろ
き中まこ及てよたるを分る方のまし作らは此御代の風之作を怪而後の雪
遠後成ての清新にくへてと思ひまさらむそりはまるて此世第一の歌人ともに
なりうるは此やうに流麗新奇なる中にも高平なりきなりるゝき歌ともまれ
これは此御代の一つの姿なりしが此世の西行上人の歌をさしやともへりといへるは
此人の哥の事なりしとやおふとんわかるに及び侍らき人の所くるゆるにあへ
き

和歌所にて述懐のこゝろを

山深くむすびし庵やあれぬらん待れしもなにすみし侍りを

はや遁世をおもひたちて山里の庵よりかへりしおもひて
然るにかくもなほえ本さへとはすて京にかへりてきにも
庵は荒にけるやしぬらんそのうちおもひ立てり身にしかは
すてやるさうかんとおもひしかは侍らくも侍れんとか
けにもあはれは侍りとも　二句はきよめ山里にてか侍人にまられしかは
事なるへしきることさればこそらんとかきて荒しめたるも荒やしぬらんとふ
また侍らんといふことなれはおきやかなむ
さは対へていへるそあれぬらんといふはおもふ事なきにいはねとも
此句かならはあれぬらんとい
事まうけしとしたまへるふにしてなきとされし松
心をもちてかくし　庵のへなもわかる半やとひせしとはいめて
あるへきにおす
さのみおもふことなくて庵の荒ぬへきかなとおもひてもいふ之

通具卿

[illegible]

定家卿

[illegible]

[illegible]

述懐のこころをよみて天武天皇御代に命をなくとよめる

わがのの露世に問もて消えぬべし　あくがれにたる世の人の心

沈淪のこころをよめる

家隆朝臣

大しま社の御代の水き社の天武天皇をいのる歌

つたかしきてをふる御代神をいのる家隆の

ため三百年歌の初二百年なりうるうるなり

長き夜の月をかつてはきつる物かたしをえ

つたかしの国のそなるるいかのかなる本分をしもとるハ三百の料

こころ　きれとさやまなかをとる年はしはるねしこ　やや

あり大しまをいのるとも天武天皇をいのるべきなり

もあくはる何ゆえ赤き赤見えもてとい弟年之

夫をいのるきねえたに何しなきねえ　ひ　別れあるき

わ手物名をこころえわれなりやや物名ハ林の赤き赤しん

大しまねえすなしひなり　弟をかもふしてとハめこあ

まねき五代分れ　五代の長さ　とう弟

もあくはめつえとうるなりいあ　やしこのハ

て社社のつるねあるうあわ見ええ

弟のこいこいるいかれをかわ

一せのこハ林のなき赤しなーのこくねあをるこ森

ゆこしこるる弟ついなりあきハ弟なれ弟をかふつて

し　赤ろ代なれ　いのこくしけて三のあ　ハ　ハ　ハ

ちこ　けこ　ちんけ　わえ　をすれ　て　年と　ふ　ど　日

赤かふ　ま　きせ　ねあ

他年　かり　て　ま　ど　ら　あ

この歌やなき川ハあはいくらもあまたあれと我身のしらぬを
本歌ハ立川のなき川かあはれさくらふはなのき
えぬねりしよる方もなしいかに心は味さいしのけさるか
うちらかハあれとはさのこゝろハつねなり　本歌とこゝろはかはらす　あはれにあらはるれハさる
まて。本歌の下句のことをかへて　さらにこのあらたなるこゝちをのせて
へにてせよとくよるへなき身の事　これハ此のつらしかきこゆるなり　本歌のうしやとあるは
まりてもるきこゆるなり　年をへてなかく今なからもちまさ
とていまさる方もなし　けしくよるへともかせしよりて
身のならいて事をねらへるこゝろ　これはこのならはハ身のなすこゝろなり　そのさま心のかのりける
世にならんとつゝる我身のまつたらいしやへきを
まりたいみなきまちたちかとませなきなり

その山にもちきらぬ月と秋風にすゝしき袖によそにみれつゝ
その山にちきらぬ月と世をすてゝその山にそ入へしとなり
ちきりねはあるまてもちきらぬハ月と契りもしつする
袖に袖よ月のこゝろかけ秋風のふくしおもひして世をい
とふ人のいよいよかなしかりける月と風との淋しきをなる
といひあはせるまてなかなかなかりきりしける心をのへて
ありつけていよいよ深きさつるといひて風の縁なり　一その
さひしきこゝろの山にかけて身をさるへき事と思ふおもはねにしも
月も秋風も袖にあまりて山へいれとすゝしきなりとなし

雅経

天の代はあへなけれは月のたはあはれとみえなのまつりのの空

たはあはれ八真男もとへきたはあはれにこそ　めでたき天はあひなり　といふ男のたへおへき

道しられわれ　ともなり。四句も哀男たりなりわれは哀男のなのこともなき

よりまとへ詞たはよ昔空ともなりて帰るそへなき詞

一首のこゝろめでたき天はあはれまうといふ外の真男の哀なる　あれとも男の不同なる哀よりまたのとくしとなり。二句けり

し家男のなりたる哀よ真男もへきことともなりてなれ

とゝゝ思ひやきこ天の代はあへなけのよくこそなつきあるよしといふ

詞は男と申く甲なしかることもれかはかは深く　けさるなし

俊成卿女

としをへて憂き月かけにしをれある袖よ秋をとふとて

月のこゝろもしとて哀心の深よめりしてなほ月

をうらめる袖なる秋なるをとしみて袖のゆくは秋のとなれ

やまよふことよしとあるなるへし　此流して八千首のと思ひ　しくもまりて八必多

くのうをふくしる思ひなる秋のとうのやうる物のうとしのかるゝ

折りしもふかりの事なれ千首のうへのうつてふくあたらぬありとしてこえに

然もとしき歌をとへて題の述懐のうつさしく　述懐のう　八かうることこ

女とてもおしてよんまかなうぬ事ありてあくやくあくやともあるは

後のおつらしし述懐の詞之志の歌もなかるけりとかいふ事ありてせ

押八そしれはますれすかるよ述懐の後とかえなとハそか述懐のうかぬ

はをるうき世といきとかる八大丈夫の上のよき之深き家の中よそて八述懐と

いへともくのなかる也す。

もらへ月くかとよ哀なる袖なれなと

むかなりてもかし八袖のも八秀の事かんとて　しとて

といふ事論なくきこゆ　たゝかうも有もあられれはとて世し　こえて袖のまことしか後さんされ

八代物名ならひとていふ述懐の方にも出しかるへく
又論なき雑にもよめるへき此二ツの雑ハ上よりときつゞけ物名のよてさ多
くの本にも有けれハ本雑し是をある本中にさる説此説ハ誤りなり
も是も本につきて出していふへしとなしといへ
なるそ総へる事ハ書るも状をハ世をなしといふ
まことに我かしみをとしていとなしといふやニ三の
句の事ハ上に聞きれハ皆としなるふるくとかつく
き也八をうしいふなとてらなるもなしの事そらるきる事之状と恨そとしく道
といふ事まんなわろく詞との事なりしときるくとこれハくとのいふなとかへ
つくといふく旅とのえさるかなし其句といふ抱るみけ定めるといりみもとれそんその人恨むるとしも状

と情すいふ歌人の情をも以て次一首のことわりなかれとて
別て状をすかうきてすかしいましとみかなる状のうらめしさて作く
歌をくしとなしと秋と情ますとハ不風流なるあわれをおもふし
の状よ恨るくときとうきしてしいふるあわれをもられ上ツの趣之きれとも今ハ一事まとてとあるハれり
けるかなくしかるへくるもそとられハいふ物名と結句のてもし物名ハそりしとすよろき本をとく作之
二句と次句のかわしせよ言りてもしぬ類へ二三の句を潤しもいれるし

千五百番歌合　摂政

うき沈ミらん世を出ていりまでもんなよいて並へりよめる
物名ハうらふ事ら沈むとよろしいふ事けら毒の首ひさまくせし其尖ミ
一その事ハ未ん世ハうらふ事らきうりもうけていうわれんなよいとたんれら返答
しりぬわるハ誠ましき事とにけるハ悪趣の業ハ
多くしてお歌の縁よハうしときあるかな

題しらす

家はなりひらのけてとまらぬ世の文字をかきき
[illegible]とてそこしりしぬる事あしかましき歎きしぬ
あるかな世中とは歎のことばに[illegible]世と歎きし[illegible]
なりさすらふ人後もせ世[illegible]はきぬ[illegible]文ハとかく思ひれてとく
一首[illegible]あはれとぞ人のつひに[illegible]思ひ合す
そ家なりしをけてとえ[illegible]てぬと[illegible]ふめて[illegible]
いかさまとさためたる詞なれとも[illegible]ほとしきほと
はかりと[illegible]ての[illegible]ことの[illegible]例多し[illegible]
ぬ事[illegible]論も[illegible]
かくしゆるもみなそ[illegible]きふ[illegible]りおもて世[illegible]や過ぬし

[illegible]大の舟よ[illegible]へ[illegible]かな国のまさきのへるかなし
[illegible]物二句は[illegible]たいの家のごとく以上不用之[illegible]付の[illegible]
[illegible]しまして各[illegible]の[illegible]くとたしたとして[illegible]
きふと[illegible]かかし[illegible]さんはうけぬこと（そのこと[illegible]ぬ也
とまりへる[illegible]きぬ[illegible]世の中を[illegible]
[illegible]ぬ都をしてくまいろとりふこころ

五十首歌の中に述懐の心を　寂蓮

なからへて世をうしのひとなほ[illegible]いきうるたる命なりけり

いきうけはわか命のなからへてあるといへる[illegible]の文をいれ[illegible]
[illegible]をとりてよあるへあ[illegible]すうし[illegible]ふ[illegible]あれ[illegible]
必[illegible]て並立る例のこと[illegible]文長[illegible]と[illegible]く[illegible]（そのこと[illegible]
うきおもなからへて世[illegible]
[illegible]命のあるといふ[illegible]

世をすつる人をわかるゝうきふしもおもひしれ世　権中納言為宗

世の中のうきをしのひ出家する人の、捨て世にありてもいたつらなる身をおもひしる也

述懐　　大納言公衡

一、捨やらぬ我身をつらきものにしも身のうき宗を何とか世に

三四句もこの心をいひのこしけるにもこそ、我身のすゑもたのみなきことをおもへる世にもあらぬを、ことにうき世にもえ捨ずして、あはれ我身のつらきよとなり

源師光

一、うき身をしのばんまでもなき世にしも

よくきこえたる歌也、此歌ハ大臣かゝる名をかりて世をすてぬ身を述懐したる歌にて、上古の歌ハ外にもかく、ひとへにまことの心をよめるもあり、今此歌も三途の苦をおもひ、ひとへに世をいとふ心をのべて、むかしの人もかくこそありけれと、一入師範にして四海を保ち刑部卿にておはしましたれども、南殿にてはかなき世をいとひ、なほ世をはなれんとおもひけるにや、さらに此人をもつて、此歌をこのまれ給ふ心にて、此歌のあはれなる所をかきとゞめ、人の情にたへたる歌なり、とふらひ人々の情をそへて、ひとつの歌のこゝろを、うき世ある人の情にかなひ、すゑに大かたの世をおもふ心をのこし、世をすてがたきおもひを述たるなり

入道前太政大臣家百首歌に　　刑部卿頼輔

一、河波の底のうつせ貝たぐひなき世を渡るかな

のかりかねふよハ六條の哥をせらるゝし。つみて使ひらとゝろ。らるゝへ。
私の縁の月。

讀て侍る百首哥を源家長のもとにつかはし
けるに書つけて侍りける　藤原行能

一 かきなかすことの葉をたに沈むなよ身こそかくても山河の水

家長ハ和哥所の開闔なりけれハ院にもけいせんをたのもしくおもふ哥也。三句なとハ身ハ沈淪しても此哥をたにといふ心也。三句
そ奏覧にいれんといふ也。二句なとハ身ハ沈淪しても此哥をたにと也。
あなかしこ下句ハ身こそかくても家身くのかく沈淪
たれとも世このたなかれ沈めなしてきこえあるをといふとなり。

身の望かなひ侍らて社のましらひもせてこもりゐ
て侍りけるに葵を見て　鴨長明

一 見れはまついとゝ涙そもろかつらいかにちきりてかけはなれけん

みなもとはかきりもなりたりいかにちきりてかけはなれけんといふに
はらつれ縁の内一そのさけあふひをよれもえいかにもちきりかけけるといふ

同縁にて氏人のましらひもおもひなるよしをいへるなり
わかのちきりハいふよりまてこそかけはなれたるゝといふにかけたり
なりけるあふひをいかにちきりてかけはなれけるとなり
又葵とかつらとおなしてかさねてちきりてかけたるし。

題しらす　西行

一 いつくにもすまれすハたゝすまてあらん柴の庵のしはしなる世に

柴の庵のしはしといひかけたる文章也。その心ハ人のなにとすまれすハたゝすまてあらん
ふかく山家の庵を結ひても同し事世なれハいつくにもすまぬにハあかて侍らくハさき
こゝにすむもよしすまぬもよし也。
住居の頓着せしとなるへし。

一 月の行山に心をおくり入てやみなるあとの身をいかにせん

月の行山を西にたとへ西方弥陀の浄土に一念臨命したる
下句ハ後の行者身にいさ残る身をいかにせんといへるなるへし。

五十首歌中に　慈円僧正

一 たかふともをさへふみけんあふなるの寒の庵てけやれき

下風の流れ[illegible]歌[illegible]のさまをわたしきさいはいと
もわけくはまをかし[illegible]をたる所とうきもの[illegible]
[illegible]何[illegible]
[illegible]

いとをとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなり

一いろ〳〵とをとなりて世をとなりのつきをあはせいふとろて
世をとなりのつきをあはせいふとろて
あつまるをつきをあはせいふとろて
一をのをとなりをいふとろて
[illegible]

西行法師山家集にあり

日のあつまりとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなりとなり

八條院高倉

吾世者月日の影のあらまほしきかの道を又聖にて年
上人お家の月日のあらまほしきかの道を又聖にて年
上人お家の月日のあらまほしきかの道を又聖にて年
上人お家の月日

題しらず　後鳥羽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三百もしらるる詞の葉の
[illegible]

宴秋院冊後

何とてかきみ[illegible]

述懐百首の紅葉　後成卿

[illegible]

題しらず　宮内卿

竹の葉を風吹きしをれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首歌の懐旧　後朱雀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まれにきたりてわすれがたのみてはるかにかたれば風のかすかなるをふきかわす。

題一ら歩　　藤原大僧正

、世中をうくるのみつくしかはてはいとこひしき

上のうくるなる世を遁れて世をうくるとよめり。きやうの時は世よりはるかに世をうくるとよめり。

、世をいとふのみつくるまに過ぬる月日をかぞへてつ

いのかくれ遁世をしてしのびてかくれゐたるなり。月日をかぞへてその月日をかぞへてすみけり。

てくるまなかりしかくれそしこうの身をいとふ

てくるまなかりしかくれそしこうの身をいとふ

といふなりしかくれそしきてゐ家をしくれたれば

きこゆ世のをしはかりいとふ世をいとふ身をわ

そしきたるしくれたれはかくれたる隠なし

きたるしくれたれはいとふ世をきこゆ

、何しかはふ世をいとふ人のとかへりてもとくるこ

世をふきこゆるなるをきこゆるなるをとはまはしまあ

うこ世をいとふ遁世をしたる世のなかりてはいとふ撰集

入道前太政大臣　禅定のけめてこそ

比叡山のふもとにすみけり

西行

、世をいとふ人をたのもしはかりとおもふ世の世をいとふ

今は世を遁るきこゆるきこゆ世をいとふ人何すこ世をいとふものなり

つ世をいとふ人をたのもしはかりとおもふ世をいとふ人をたのもしはかりとおもふ世をいとふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二句世のうつりかはるを嘆ずるなり

物ふるとは何をいふぞ今又世のうつりかはりをなげくなり

あるべきものとは世のうつりかはりなどなくて世のあるべきものとなり

あるべきものとしなしとは世のうつりかはりなり

一何事もうつりかはるなりけりもしも又世のいとはしきすてがたき世なれば世のうつりかはりをいとはしきすてがたきとなり

何事もうつりかはるきはまりなきものなりとなり

入道花関白基政公

いとはしかはれるきはまりなきものとなりけり

かなしきものとはいとはしきものなりけりきはまりなきものとはいとはしきものなりけりとなり

一月我身山の月のさやけきよりもなりて人をもうらみぬ

題しらず　宗蓮

我なりぬ月なきあの空の月にはなりて世をうらみぬ

[illegible]

一なるまゝにて今はゆくすえもいとゝ月日をかさねつゝ

[illegible]

宇治大納言源師光

[illegible]

題しらず　八條院高倉

[illegible]

西行

一なるまゝにて[illegible]

寂蓮は師人にすぐれて歌よみ也侍りしが、[illegible]
四十[illegible]人[illegible]
[illegible]野[illegible]
もれとうくゆるしは道こそ[illegible]の世の末[illegible]
ぬるのくもまこの木山歌よみ[illegible]
三位後[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載集えらび侍りし時ふるき人の歌をえて
後成卿

行末をかぎりもなき人やわれ[illegible]
三[illegible]
[illegible]

崇德院[illegible]

世中をなげかつれてなりしかとなき[illegible]
世中のくるしきことをなげかつれてなりしかとなき[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

、[illegible]ありてふるかわのゆふつゆ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

大神宮奇中[illegible]

[illegible]

太上天皇御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上古の人、後世にまさり給へる天竺震旦にもまさり給へる事、
あるべきにはあらねども、西蕃の人とりわけ、天竺震旦の人、
大後世にまさり給へるこゝろばへにてこそあるべけれ。
本文を按ずるに、二字のさかひ、天竺震旦の人、
おのおのこゝろばへ、まさり給へる人なるべし。

神祇山月はやうやうちかくなりて天のはしたてにかゝりつ
ゝ、ほのぐらき所なり。神よりしるしを見せたまふ。
のやうにおぼえたり。この佛のこゝろは、
はじめて神にまゐり給へるなり。二字のさかひ、神にまゐりぬ
ぬるあるべき事なり。天竺震旦
にまゐりぬ。

伊勢の月夜の仕まつりて月をとゝのへる
さやうなる歌の言ばのをもかはりたる月ごとの社

二月十五日、天竺の霊鷲山にて佛の事、
のたまふとき、佛のまた神にまゐりたまふ。
祇の舟にまゐりたまふ。
みわ社、月夜にいでたるもあれども、
やうにこそ神にまゐりたまふ。
ばかりにこそ、
しるしをおぼしめしのつかはしたまへ。

神祇　慈覚大師

やうやうにる光にあるるかはいさり川原の秋の夜の月
月のいさり川よりたちぬ神のやどる光のあるかたぶく

家のあまりとて、降花といふ
りとなりぬるやあらん。

三月ばかりにて人の侍りたにちしの詠に

中院入道左大臣

、たちつゝ人もきまくのかしきに武蔵屋門の桜の花

よくきこえ
なるかな

入道太閤豊臣秀吉

神風や宇治の川の宮柱いくちとすあるなにしめ田

宇治川に宮柱をたてゝ大日本ほうこくの川の縁の田。

平貞敦朝臣 越前

、神風や山田の原の御祓をとりけしをうるあ日をまき

神風八伊勢の枕詞なるを、宇治川につき、山田の原とつゞくいとおかしくなる上に
もてなす例あり。されども、大神宮の御祓をうるといふ事なり。

江頭宿源 大中臣明親

宇治川とゝやまきき水枝のもとにて山吹の花の咲風

宮やまきき水枝なん花の咲風枝のもとにふ

ことをつゝとあるゝ三宮のつきたる枝のもとにふ

いにのたゝ下つゝとわれ神のきくいにたゝ神と

ゝの神のそのとつゝ根ふ花をゝるゆゝ下ゝ

のはとゝゝ下つゝとわゝるゝ武蔵文の九郎ゝ

りゝゝゝゝゝゝ花をまちゝ要きを聞るゝ武蔵八麻呂とゝ

ゝ清ゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ

八幡宮の檜下にて檜引の事ありける事を聞きて
て五神樂の夜まわりて榊をいつる行る二月
祭の夜のしるしの長きことなりて有れども
るまたはあり年の祝きしるしん八幡宮
法印成清

榊葉にうるのいつるしをかれる神よりとりかはしなき
二月ふる本綿をいるるとりかつるのつるのこれるあ
りるとき〳〵ある〳〵そのふりいかれるもしるふ初者となりはの
下りも大井のめつるつかくるをたとえ
文治六年二月八日内侍所御神楽
信あて

月はるるたりに川霧こめて氷とまりる山あゆの神
新こめて山藍の衣きたる人の袖の月よりてこつ
る山あゆの神八山あゆ〳〵ふ袖を鎖をるる袖に衣をつる山恋
る山〳〵なり新帯をは神樂を恋めてなるの作問祭きるあ山麓
の新帯を作問祭きるき
なるき祭八十二月なり四月の新の氷のはてきゆる前を
ふ〳〵月八山あゆの神の氷きりてきゆ氷八氷
の氷べ新りて山なりぬるとたるこ〳〵山あゆの氏八
きりたる袖なる前をの帰りとなるこ〳〵ふ二道の
のまれる新氷に新川まえ新りて小恋新の
袖榊鎖をを山あゆ氷を袖りて小恋新の
袖頭雪　桜葉侍公通
、ふるとの風ふれるこ方はをを白妙を雪を接れる
ふるとの榊を雪をつるこ
今ふるをきてつるはを見る。

十首歌合の神祇　為冨大僕

大空にいのるこころのつよさをいかにたとへの社のあ山の玉垣

下句あさの玉垣の心しらふさそ古歌にあるさを

いとゝ深くも赤心をこそ世に舟深しふしも苔

こゝろのそこにいわゝの玉垣とあるは赤心とふかく赤心をこそ

ふかくかれこゝろしくはこゝのくしてこゝろ

あしたすゝかりて社のつたはあるはしをこゝろ

よろこ

賀茂重保

、跡たれし神よあるしの名をもせ何さたのこゝろをたてゝ選

もそ神ふ流るゝとふも佛法同ゝ。神は世を行ひ

二つの神のあらはれ逢月のそらの世

ふかゝ人のこゝろをあらはの御の河

待つも貴舟のあるしの名をいとせ

よろこ

賀茂幸平

、ちかゝ河のうゝ川ふかゝ川をきゝけてゆせきまた世河上の神

わかゝ河ふかゝ神の伝河へゆせきまゝ川の水を河せきまゝる水河上の神

きゝ水の神へ三ゝ月のてきゆせきまゝせきまゝけてゆせへゆせきまゝ水を溢れまゝせ

河上神へ

よろこ

鴨社の歌合にて人〻まゝ行る代月を

鴨長明

石川やせゝ川の流れ月なれし月をたゝねて

ほきゝをもあ

月のすゝしさ

文治六年五月廿五日奉献

春日祭

入道花園白河院大臣

、春日まうる神のこころやたひらけ[illegible]

[illegible]

家之冒頭[illegible]

、天の下三公主の山の花をそたのし方なき[illegible]

物のとなるとかの[illegible]

[illegible]

後成

春日野の[illegible]

初瀬[illegible]藤原氏の[illegible]

三[illegible]

子孫[illegible]

[illegible]

家勝四天王院障子に小塩山をかく

大僧正[illegible]

、小塩山神のこころをたの[illegible]

神の[illegible]

日吉社小[illegible]

、[illegible]

[illegible]

述懐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小野小町

はかなくて過ぎにしかたを恋ひつつ長雨の空をながめくらしつ

上皇武技、和尚の法名の上を菅家の後にあひ、なくひの事なり。ふるの中歌やとしの内に有り。はるは閑居なくて必ずあれ。

迷霧の部に武技法師の和尚を引き、雖も方丈の菅屋を合のまつりとませ入るべし。菅家大臣の歌なり。

一首の主、大神のつかひに流されもひて、ながつかひし、あをせて、春の歌。

雖野に未だ帰らぬ人

太上天皇

岩ねしめ若草なりす三雖野の山のしあらし来るか

此一首の主、岩ねしめを若草なりと分けて、三雖野の山のしあらしを、雖野に未だ帰らぬ人の帰り来るなりと、山の坐席のぬし

新宮まゐりて後、雖野川にて

雖野川のあはれのほどのよいちはやすのあたりに人々かよと

雖野本宮幾て年の月日過ぎ行くしまして

祭りをとりかはしきりて祈りあひ、ものの神しり米の主

上の八雖宮まゐりて、なほ八月米の年と神とをとりかはしかよと、
はやおかし山のひあり米しるみとあるも風久の年と下よりおもひてのまと。

歌数冊

五月くらの雲林院の菖蒲葉まゐりてこと行く

肥後

しらはきの雲のはやしをそこなはせしはあるらの花咲ちる

法華経の第五の巻の三の一首の歌の雲の文字あるはこれ八重の花咲ちる

涅槃経に仏の御遺教の文に諸法の滅とをなすわ

花咲ちる春の盛りとなりて人の世仏なれば変のちを

返すもとにかへる事 涅槃経に八佛の入滅のすがたを花咲ちる沙羅の林の色と八佛のなれる

なりとかなり二月十五日の夜の明方に八佛の入滅のすがたを花咲ちる沙羅の林の色と八佛のなれる

上下ともに寺の菱の葉の紅葉くれなゐのもの

谷川のなかれしきくすゑはまかき月のうけうしぬ

佛の入滅のうれしめの事なり実八必来常住とし八生滅とし在るなり不在るなり谷川のれのなかれしきくすゑ月の影のかげ

述懐

わるくしかしかるやせまりとをうけあるす

わるくしかしかるやせまりとをうけあるす 此歌八おもしろき

人なりとわるへなれ ことわりにはるる事なり

雄性なり

わるくしかしかるの白雲をはきてつよめてはしり手をとる

本ふるさとをはきくの白雲をはきてつよめてはしり手をとる

はきてはきくの夜のひとをはきてはしりて明八をもられて

わるくしかしかるの事をはりはとなり 此歌八をもられて

て八明朔八動りの歌をもの明朔 武物を夜八わ不動をその上

死し事を無わ事八ふしかしかること 此歌八動りの方のみ

なれ明朔の歌をもの明朔 武物を夜八わ不動をその上

なりけりとかるこ八ふしかしかるこ

なりけりとかるこ八ふしかしかるこ

すれば我法のゆくゆくは迂闊を生ずるなり。[illegible]

内院へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

れく山れいわうき世くはうつき常きさとれ感めて
題の十界八佛と菩薩と緣覺と聲聞と夫と人と阿
修羅と餓鬼と畜生と地獄と三ゑの白八緣覺を獨
覺ともいふ　自利のみ　他の功德　なき者悲覺といふ　下ろく　乾花落
葉とて　無常と歌　ばたらく　十二因緣　ふ　緣覺のこと
心經のこゝろをよる　小侍從

一　色のこゝろ　こゝろの不　きとし　今　こゝろ　こゝろ　こゝろ
人　心　の　中　こゝろ　仏　色　あ　こゝろ　こゝろ　こゝろ

[illegible]

蓮華物開樂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

引接結緣樂

五人わらべ海に網をうち入れて網をうき入れて人びとの上なる帰来機國度人天と云る文のごとくなれば網とは五人わらべ海に網をうち入れて網をうき入れて人びとの上なる帰来機國度人天と云る文のごとくなれば網とは五人わらべ海に網をうち入れて網をうき入れて人びとの上なる帰来機國度人天と云る文のごとくなれば網とは

五人わらべ海に網をうち入れて網をうき入れて人びとの上なる帰来機國度人天と云る文のごとくなれば網とは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]儀を上句に[illegible]文[illegible]のきこえかれしの文の空字[illegible]て[illegible]共かれしかたき空といひて結句の空をけわん世[illegible]空[illegible]

[illegible]の空[illegible]心念[illegible]

[illegible]の空[illegible]の感恵[illegible]て[illegible]滅諸有者の[illegible]

[illegible]

家[illegible]百首歌[illegible]

察智　入道[illegible]関白[illegible]改作

、[illegible]の[illegible]の選[illegible]

妙観察智[illegible]観念[illegible]

勸持品

、[illegible]三位經家

本文我等敬信佛當着忍辱鎧為説此經故忍此諸難希我不愛身命但愛無上道我等於未世護持佛所囑[illegible]

[illegible]

[illegible]

初二句は加刀杖瓦石なり（本文若説此経時有人悪口罵加刀杖瓦石念仏故應忍之）

三の句は悪口罵詈の人なり（五の句は悪口罵詈の人なり）

故とは故なり（故とは故なり）

とは此の世界の人なり（とは此の世界の人なり）

とは他の世界の人なり（とは他の世界の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

とは善の人なり（とは善の人なり）

とは悪の人なり（とは悪の人なり）

とは善悪の人なり（とは善悪の人なり）

人くすりをしたる文百首歌とて行なひし二字往生智

如螢火　寂然

たのめつゝたゝくにつけてもかなしきは夏のよの題の二字をもて例し縁覚とかのぜ二字分をもてこれを智暗夜の螢火のやうにいとかすかなるこゝろ歌のこゝろはこの小字ぜんしきとかのぜ二字の字くはしくは文字の月のあけはてゝ夜の月のあけてこれ上る切縁菩薩行とかなしとて夜の月のあけはてゝ夜天いまだくらしいまこゝろ月のいさゝかしるべき螢火の光をたのめつゝ三ぜんりとなる獨覺のこゝろなるべし縁覚を獨覺とも云へり

一その色いてゝ行くこゝろ花は物をはなれきるべし人数くはくくの人名并へくくの

菩薩清涼月遊花果竟空

雲くもれしかすみき空ゝすゝきもすゝきも世中をうつる月かけ

菩薩とは清涼月のゆくゝて平生をあそぶ

衰ゝ

旃檀香風悅可懷

ちゝ風ゝ花ゝ月ゝ雪ゝ山ゝ水ゝ皆ゝ世ゝ中ゝの所ゝ為ゝ

此題々歌迦のこゝろを汎入とする所ゝ衰ゝ所ゝ

所ゝ行ゝ所ゝ行ゝ所ゝ行ゝ所ゝ行ゝ所ゝ行ゝ

二三二四五と次第して五百歳に像法に入りて
ゆくなり。月日星宿の光明を失ひ、日月地に堕ちて
大海を流れんとせしかども、まことの法あるべきなり
と。文殊の五百歳をば、ただ今現世に仏法ひろめて
法華経流布せんずるなり。三三の名
を普賢菩薩の縁覚とも化するなり。

作是教已復至他國

とは、釈迦の御弟子の阿難尊者の名
題の経文の文なり。教主釈尊の御弟子の阿難尊者
なり。他国とは他国土なり。

経とは、しきたりて、経の文、器、師匠、教、教主の本をとなり。
なぞらへて、やはり、釈尊を通して、これをあつかふ。教主釈尊
なり。仏の手本、師匠、教主、教、経、器、師匠、教、教主、
子のなり。復とは、又、至とは、なり。
うの法華経のそなたなり。
法華経の大意を
あらはすなり。
二の名あれども、三の名は、是好良薬今留在其舎可取服之愛
乗とは、法華経の縁覚なり。
此日已過命即衰滅

、弟子すでに命を過ぎぬ。

出曜経云、世日即過、命即減少、如小水魚、斯有何樂、[illegible]

[illegible]

弁恩入無為　寂然

、[illegible]

港華経云、流轉三界中、恩愛不断絶、報恩入無為、真実報恩者、[illegible]

物自ハ報恩佛ノ人なるき、三界のうち、三界を流転すること、[illegible]

[illegible]

[illegible]

会者有別離　源季廣

、あひてもあはでとゝまらぬ白雲のうき世のいとけきるる

涅槃経云、盛必有衰、合者有別離、命為死所吞、無有長壽者、[illegible]

白雲のとゝまらぬ、[illegible]

[illegible]

別者欲往生　寂然

、[illegible]

[illegible]

懷恋慕渴仰於佛

、[illegible]

[illegible]

十戒の弥陀に仕ふる不敬の戒

[illegible]

不偷盗戒

[illegible]

不邪婬戒

[illegible]

[illegible]

不酤酒戒

[illegible]

[illegible]

入道太閤白家千如是所ゝ世仏ゝ[illegible]報

二條院讃岐

[illegible]

侍賢門院中納言

[illegible]

仏々法界衆生無量の名を

後拾遺

[illegible]

美福門院極楽六時讃の詞より[illegible]

つるべきゝ仏々法界衆生を大悲[illegible]

て法歓喜踊作[illegible]

今さらに入見とてもなかりしに法花の四の名のせい

大悲は法花の[illegible]

[illegible]

曉いろうて波のうへ金の岸よりする松

、いそへの尾上の梅も咲ぬるか山岸うつなみの曉のうめ

いそへの八重咲ぬかもしらくもの岸のうなみの曉のうめ

そすゑ尾上のうねのうめ咲ぬるとも

百首歌の中に毎日晨朝入諸定

武子内親王

、月ぬるる曉ごとにうめもこつきねの夏を出き

三の夏定に入て親会するさまをへたれとも雖ものうてい物句のこつなるとなくかし定のこゝろ

ゆきねの夏とは煩悩の夏のいまはのぬるとなり凡

そこゝろいふの夏を作ること一生涯なり

初夏ごとにいつきこゝろにしほ世顕比丘尼經といふ

比丘尼の事なるとは歌人つゝの中にてよくあつかひ

經のこゝろをすゝく文西ゆりてよくあつかひ教の所

この經に毎日晨朝に諸定時化道抜苦與樂とし

我毎日晨朝に諸定諸地獄を離苦とあ

西方は行住坐臥にはなるほとけ

てゝ月のあつまるこゝろ門のまゝ

つゝ

侍賢門院堀川

、あゆくまつ花ちるこのもの空たのめこゝろ

物句八社歌ゆりたるこゝろ

首のこゝ八社歌ゆくまつ花ちるこのもの空たのめこゝろ

よるぬ。ぬぬふひなきまとゝ西りもそも月の塚の月ゝ名めハ俗ゝ月
分ちゝ　ゝ月月ゝあるゝ。

西行

、立ゝて雪ゝ月ゝ月ゝ月

萬葉集略解　全三十冊
後選集新抄　全十五冊
遷宮物語　全三冊
熟田縁記　全一冊
志ゝの目みり物語　全二冊
多く隨筆　全五冊
冠位通考　全一冊
江戸職人哥合　全二冊
尾張家法と　全九冊
伊勢物語　全二冊

鶉衣　全十二冊
枇杷園七部集　全四冊
同　夜白集　全四冊
同　雀芝集　全五冊
狂哥初日集　全二冊
同　ゝ蕊集　全二冊
同　新心集　全一冊
同　不卜集　全二冊
同　年中行事　全二冊
同作者類　全二冊

文政二年己卯暮秋發行

東都　前川六左衛門
浪華　森本太助
京都　風月庄左衛門
尾張　同　孫助
同　片野東四郎梓

書肆

愛知県
1105052532
911
イ
2-5-2